

森林・林業白書が公表

特集のテーマはSDGs

六月一六日に、「令和元年度森林・林業白書」（令和元年度森林及び林業の動向、令和二年度森林及び林業施策）が公表されました。

特集は、環境問題や経済・社会の持続可能性への懸念等から、これまで林業や木材産業と関わりの薄かった個人・企業も、森林・木材利用に関わる動きが広がりを見せていることから「持続可能な開発目標（SDGs）に貢献する森林・林業・木材産業」がテーマに設定されています。

トピックスは、令和元年度の特徴的な動きとして、「森林経営管理制度、森林環境贈与税及び国有林野管理経営法改正」、「東京オリンピック・パラリンピックでの木材利用」等を取り上げています。

通常章の第Ⅳ章では、国有林野の役割や国有林野事業の具体的取組について記述しています。

※ 「令和元年度森林・林業白書」は、林野庁ホームページからダウンロードできます。

獣害に取り組む猟師 NHKで放映

7月19日、NHKテレビで「徳島・つるぎ町桃源郷の幸せを守る猟師」が放映されましたので紹介します。同町内にUターンされた栗本新二さんは、生活している集落で、イノシシやシカ、サル等による果物や花・野菜の被害を目にしたことから、栗本さんの四季にわたる獣害対策に向けた取組を追いかけたものです。

栗本さんは狩猟免許を取得したうえで、箱わなやくくりわなを自分で作製し獣害対策を実施。特に共感したのは、地域との結びつきで、栗本さんは集落を毎日巡回し、住民と会話の中から情報を得て、獣の痕跡を把握したうえで、獣道（けものみち）周辺にわなを設置するなど、状況把握に努める時間の大切さを感じました。

国有林においても、防護柵や囲いわな等による捕獲に努めていますが、この放映を機に、改めて、地域や狩猟関係者等と連携した捕獲推進体制の構築が必要と教えられた45分間でした。

編集後記

梅雨明けの暑さは、身体にこたえます。暑さに対応した体調管理に努められ、これからの季節を乗り切りたいものです。



「森林に入るといい匂いがする」って

森林の匂いの成分は、フェノール類、炭化水素類、硫黄化合物類など多様、最も多いのはテルペン類。テルペンとは、トドマツやニオイヒバなどの葉をちぎったときに漂う匂いで、イソプレンが植物体内でいくつか結合して合成された物質群の総称。

樹木には通常50~100種類のテルペンが含まれています。結合するイソプレンの数により、モノテルペン（2個）、セスキテルペン（3個）、ジテルペン（4個）、セスタテルペン（5個）など。イソプレンの数が少ない、すなわち、分子量が比較的小さいテルペン（モノテルペンからセスキテルペンくらいまで）は揮発して空気中に飛びやすく、私たちが匂いとして感じることができます。

これらが空気中を漂って森の匂いを醸し出しているのです。また、このほかにも下草、腐葉、きのこの匂いなどが混ざり合って、その森林特有の匂いが作りあげられています。

写真は安芸森林管理署管内 千本山天然ヤナセスギ（遺伝資源）希少個体群保護林内
（もっと知りたい森と木の話より）

